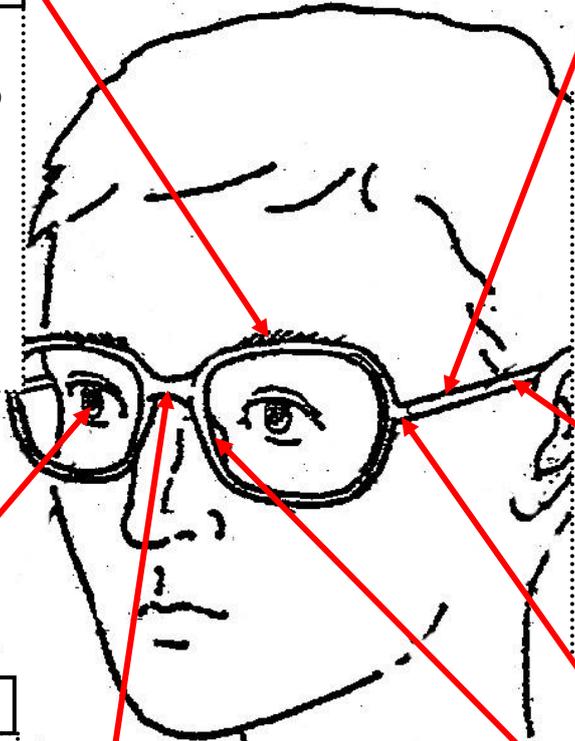


眼鏡のチェックポイント

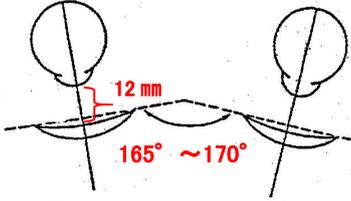


眼鏡図は「正しい眼鏡の条件」講義資料図5
出典の詳細は不明



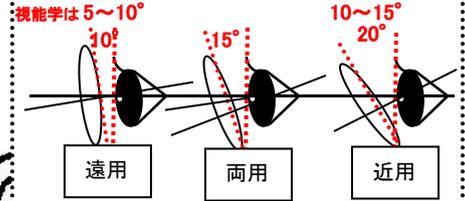
フロントリム

- ①上方から見て顔と平行である
- ②反り角が $165^\circ \sim 170^\circ$
- 遠用 180° 近用 170° (三城光学研究所より)
- ③頂点間距離 12 mm



テンプル

- ①側頭部に適度な圧力で密着している
- ②前傾角 $10^\circ \sim 20^\circ$



- ③まげが耳の付け根のラインに正しく合
って部分的な圧迫がない
(・耳介頂点から前部のこめかみは触れ
ず適度な隙間があく
・耳介付け根に沿って曲がるが、耳介付
け根には触れない、耳介後部・側頭骨に
適度な力で抑える)

光学中心

- ①PDと心取り点間距離(CD) ← 左右眼が違うことが多く、片眼ずつのPDを希望する眼鏡店が多い。
- 遠用眼鏡
- ビジュアルポイント
P. P からの下げ量 $2 \sim 7\text{ mm}$

- 調節力の充分ある若年者 → PD - 2mm ← 常用なので遠近を見る程々で (但し輻湊不良の近視はPDのまま) ← B out の効果が出ると困るので。
- 高齢者 → PD のまま ← 遠用専用眼鏡となるので

- 近用専用眼鏡
- 通常 → PD - (4 ~ 5mm) ← 近用 CD の公式
(但し凸レンズの場合多めにひく)

- 2・3焦点、累進屈折力レンズ
- 通常 → PD のまま
- ②目的に応じて下方偏心がされていること

鼻パッド

下がらず、正しく当たっている

智

- ①衝撃に強い
- ②調整が容易である

ブリッジ

耐久性に優れていること

近用 CD の公式
遠見 PD × (目的距離mm - 12 / 目的距離mm + 13) で計算
例) 遠見 PD 64 mm、希望距離 30 cm の場合
 $64 \times (300 - 12 / 300 + 13) = 58.89$ 近用 CD = 59 mm
ガンジーの目指せ SSS 級認定眼鏡士…: アメプロより
高齢なので輻湊不足を考慮して Base in の効果をねらう。凹レンズでは効果があまりないとのこと。